

## 日本の地圖

天保から明治大正への進歩

(三)

藤田元春

## 九 (つゞき)

思ふにケバ書は之を前代地圖に比して一段の進歩である。前述佐藤政養の萬國圖でさへ、山脈はへ字形の連續であるが、安政六年に出來た松浦武四郎の「東西蝦夷山川地理取調圖」は明にケバを以て山地を記したので、所謂現圖法上のエポックを作つたのであつたが、それがいよいよ明治の地圖を支配したので明治六年以後になると、地圖はその表示する土地が或は國であらうと、或は町であらうと、多くは銅版ケバ書きであり、カツバ摺の彩色をするものだといふことになつた。右の博貫堂の萬國輿地全圖もさうした形式であるが、下つて明治十六年に島林專治郎の作つた「大津市街圖」のごとき一小版で

さへ銅版ケバ書の精巧な一例を示めず時代になつたのである。

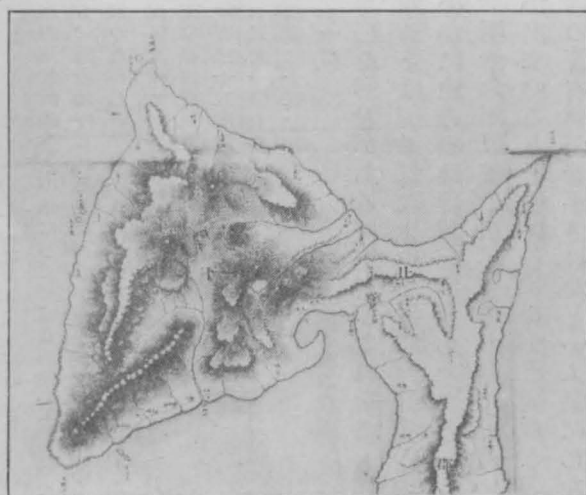
## 一〇

まづかやうに述べたことで、天保以後明治初年への地圖學界に一二の進歩の跡のあつたことが明になつたこと、信じるが、さうした變化は一朝一夕にきたものでなくて、西洋文化の輸入といふことが明治維新以來一段と進んだ結果であるといつてよい。ことに新しい政府は明治四年に廢藩置縣といふ大事業を行ひ、其後徐々にその廢合を行ひ、明治九年頃には三府四十三縣といふものが殆ど確立した、そこで各府縣に「地理課」といふものが出來て、其管内圖をつくることになつた。これは前代の國圖の跡をついだ

ものであるが、恰もこの時内務省は全国的に地積調査を行ひ各町村に於て一率に一分一間、即六百分一の「地券圖」を調進せしめ、以て徵租其他の行政の基礎に供するといふやうな新政を布いたので、その指導者として、各府縣の地理課には有要の材が集められた。そこで明治十年以後に出来る府縣管内圖といふものは、全く前代と類をことにした立派なものが出来た。筆者は目下それらの蒐集中であつて、全部を揃へたのではないが、明治十年五月に出来た小澤直人の「千葉縣治全圖」の如きは其嚆矢とでも云ふべき良著であつて、小澤氏は夙に木更津縣に住へ、測量學に通じてゐたから、その成果も立派であり、ケバ書銅版、海岸は汀線に併行した曲線をいれるといふ形式をとり、驛路實測里程や、管内大小區役所位置及距離一覽等を附加してゐるのである。同時に方格圖法によつて、東京を〇度にした經線を十分ごとに引いたもので、右の平田繁と同様に新に東京を中度としたことは

### 第十圖

青森縣管内全圖下北半島のケバ



確であり、たゞ前代の翻譯に従つて、グリニチを用ひないといふ自覺さへ出来た時代を證するのである。そこでかうした管内圖が例になつて明治十六年に出た青森縣管内全圖の如きは、結城正明の銅鐫であり、其ケバ書に至つては全く

群を抜いた立派なものとなつた。これもやはり方格圖で東京を〇度としてゐる、さうして郵便線路圖と、青森、弘前、八戸、三市街圖を加へた。この形式は、明治十七年に京都府地理課で山田忠三の製圖で出來た「京都管内圖」にも踏襲された。蓋し管内圖といふものゝ一つの公式となつたらしい。京都府管内圖は其ケバは青森の地圖ほど精巧ではないが、やはり方格圖であり京都、伏見、宮津、福知山の四市街圖を別出してゐる、縮尺は十萬八千分一、市街圖は三萬六千、一萬八千、まち／＼であるが、東京を〇度とし之に注記して曰く、

中國境界及沿海岬島嶼ハ悉ク伊能氏ノ實測圖ニ據ル道路里程河川ハ明治六年ヨリ同九年ニ至リ本府ニ於テ實測セルモノニ係リ、其町村名宿驛郡役所警察、同分署、郵便局、電信局、電信線路、鐵道等ノ位置ハ明治十三年ノ調査ニ係ル、其他數種ノ地圖ニ就キ參酌折衷年ヲ經テ此圖ヲ成スト雖モ同ヨリ悉ク實測ニ係ラザルヲ以テ、尙恐クハ謬謬ナキヲ免レザランコトヲ看者之ヲ諒セヨ。  
經緯度ハ内務省地理局測量課ニ於テ測量セル者ヲ以テ茲ニ

録ス。

京都御苑内測候所測點（不幸にして今はこの建物なし又その測點も、筆者幼時これを見たことがあるが、今日は全くこれを失つたらしい、出來るならば舊位置を明に復活したいと考へる）

東京城天守臺西經三度五十九分三十九秒

綠威東經百三十五度四十六分七秒

北緯三十五度一分七秒

鐵鉞偏四度三十五分

明治十七年

京都府地理課

まづかうした解説がある、筆者がこれをこゝに抽記したことは、これによつて當時内務省の地理局がいかん地方の地理課を指導したかといふことや、明治六年以後十三年までの間にいろいろ材料が出來たことを明にし、やがて同様な順序で全國の管内圖が着手されたといふ筈にしたからである。

それにしてもかうした管内圖は基礎は伊能圖や天保圖の模寫であつて、古へのへ字形描寫をややくケバにかへた程度にすぎないのである。たゞこの官版と共に地圖は銅版ケバ式で方

格圖であり、東京を○度に統一した形式のものが天下最新の地圖界を支配したと見るべきであつた。従つて天保圖や伊能圖の生命は、猶明治の初年を支配して凡そ二十年に及んだものといはれるのである。

我等の所有しうる現代の地形圖の如きは、大正以後はじて全國的に出來たのであつて、これは府縣のごとき小さい機關では出來る事業ではなく、結局國家の力で劃一的にやるといふ機關が存在してはじめて可能であつた。そこで予は節を改めて陸地測量部の事業の發展といふことについて一應の略説を試みてみやうと考へる。たゞこの際一言したいことは、折角こゝまで各府縣で地理課が努力し、且其努力に報ひうるだけの地方圖が各府縣の手で出來たけれども、いつの程にかさうしたことが無くなつて、今日では地圖といへば陸地測量部のみになつてしまひ、中央の専門といふことになつたため、地方に分散して芽ばえかけてゐた地圖學の進展は、全く跡

方もなくなるに至つたといふ若干の恨めしさである。しかし最近時になると各大都市の膨脹につれて、府や市の地理課も昔日の如くでなく、自ら地圖を作成するに至つて、明治初年の面影に復歸せんとしてゐるのである。これは勿論測量部あたりの技師の指導を仰いで後出來てゐることではあるが、かうした地圖の實際の必要が段々と進んで民衆の生活に立脚した實地必要な局所地圖が、追々とつくられるに至ることは、誠に慶賀すべきであらうと考へる。

## 一一

さて愈予の説述は、どうして今日の陸地測量部が出來たかといふことを述べねばならぬやうになつた、明治四年七月工部省は其工學寮内に新に測量司(定額十四萬圓)を設け英人マクウェン外五名を招聘して全國測量の業をはじめた。五年三月になつて測量師長マクウェン指導の下に、東京府下の三角測量を開始し、宮城富士見橋に第一點を定め、順次十三點の三角を本所

基線に閉塞せしめ、以て東京全市を包んだ。ついで大阪京都各開港地の三角測量をやつたが、いづれも完成しなかつた。そこで明治十年一月にこの事業を内務省にうつし地理局の下において依然英國式で、全國大三角測量に従事した。

同時に内務省に於て五年以後に於かれた地誌課での製圖といふものも段々と進歩し、明治六年に奥地利維納の萬國大博覽會へ出陳した日本圖は實に岩橋教章氏の手になつたものである、岩橋氏はこの地圖を携へて維納にゆき、歸朝に際して獨逸諸國より齎す所の資料により圖式を改訂し、五百分一から五千分一に至る圖譜及び一萬分一以上の諸記號を作つたので、内務省からこれを「測繪圖譜」四十葉の冊子として出版し、十一年八月に之を廣く各府縣に頒布したものである。前記「千葉縣治全圖」は之に先行してゐるからその趣はやゝちがうけれども、京都府や青森のは異同はあるがその所定に従つたものらしい。さうして別に十年には前述した地券圖を

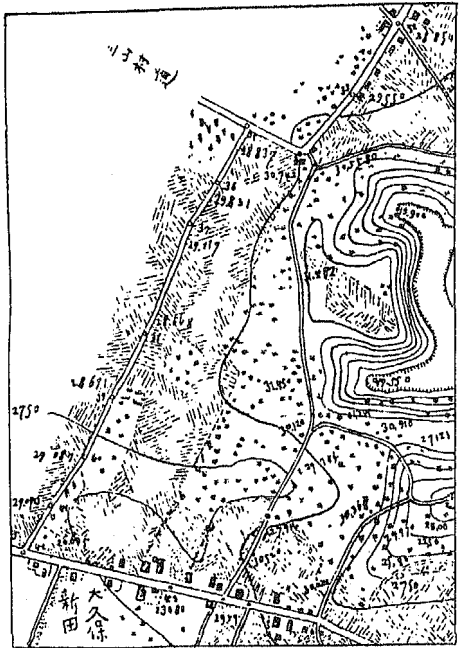
各町村で作らした、これ全く漢代の「天下土地之圖」であり、平安朝の「圖籍」の再現であつたが、それは現在も猶日本全國の町村役場にあつて、あらゆる行政の基本となつてゐる大切な記録である。さうした次第で内務省の三角測量や地圖編製事業も追々とすゝみ明治十一年には那須西原で基線測量を實行するまでになつた。

一方陸軍に於ても軍事上地圖をつくる必要があつたので、工部省と同時に兵部省參謀局に間諜隊が設けられ地理の偵察、地圖の編成を兼ねる機關をこしらへた。そこで明治五年には全國に令して地圖編纂の原子資料ともいふべき多數の國圖や報告を蒐集するといふことをやつた、やがて明治七年に佛國武官ゾルダンを聘して範式其他を大成した。そこで内務省の英式と對立したものが出來てしまつて、後年にはこれを統一することが容易でない程になつた、即明治十五年内務省で製圖法式會議をひらき、陸軍側も之に參與したけれども終に統一がとれずに了

第十一圖

コントロールラインを用いた最初の地形圖

(測量部沿革誌所載)



大久保から新田へ向かう第一号の測量線

つた歴史をのこしたのである。

當時陸軍省(明治五年改名)參謀局の地圖測課量課に居た重要な人は長嶺工兵少佐といふ博學の人で、數學家福田大尉、小宮山昌壽、小菅智淵、關定暉などいふ將校が之に従つて事務をとつてゐたが、明治八年小宮山の手ではじめてコ

日本の地圖

ントルラインを用いた地形圖

が出来たやうになつた。同時に印書局に米國人ポイドンが居たので、陸軍の方から其術の傳習に行くものが出来た、しかしかうした出張の傍聴ではどうしても物にならない、又容易に教へない、省がちがうと互に妙に意地を出したものとみえる。そこで陸軍の人はこの印書局の正傳習員松本といふのを秘かに雇ふて術を學び、やがて松本を雇聘して

兵要日本地理小志の附圖や、大日本全圖などを石版印刷でつくるやうになり、印書局員を驚かすに至つたといふやうな挿話さへ出来た。

とにかくいろ／＼とやつてゐる間に測量も進む、製圖の方も工を起すといふ形であつたが、明治十年西南役が勃發するに至つて當時第五課

三章

五七

第十二圖 明治十年戰跡實測圖 (測量部沿革誌所載)



圖解 賊軍城山にこもるや、官軍その周圍に土壘を築き砲をすえ、猶又圖に示めす如く竹柵を以て之を圍み、九月下浣遂に之を陥る。原圖梯尺二萬分一參謀局第六課製作、歐式地形圖である。

地  
球

第二十卷

第五號

三頁

五八

といつた製圖課の方で、急に「九州全圖」を編輯したが(轉寫石版)、どうも地形の詳密さがない。そこで第六課(測量課)の全員を派遣して、戦地の迅速測量に従事せしめ、漸く軍務に間に合はした、その出来た一つはこゝにかゝげた鹿児島圖幅であつて、現在の地形圖とは趣がちがつたものであるけれども、かうした努力と共に、陸軍の人々の中に日本の地圖を統一してつくらねばならぬと考へるものが出来、明治十二年には測量課長小菅智淵少佐の全國一般の測量意見といふものが、時の參謀部長山縣中將に提出されるに至つた。そこで内務省と競争して陸軍では明治十四年(明治十年)はじめて東京灣の三角測量をやり、獨逸製經緯儀の優良なるを確めた、かくて英式佛式、獨式といふ三者が不統一なまゝに用ひられることゝなつたが、明治十五年工兵大尉田坂虎之助の獨逸留學が終つて歸朝したゝめに、新に大地測量が全く獨逸式にかはり、現今の三角測量の組織と方法が端緒をひらくに至つた。恰

もよし明治十七年六月に大政大臣三條實美の達が出て、内務省所屬の大三角測量事務は自今參謀本部の管轄に屬するといふことにきまつた。

明治四年以來いろ／＼變遷をへ、明治十年以後この年頃まで各府縣の管内地圖に影響した文化的地圖の編輯はこの時を以て中絶することとなり、全く陸軍中心の地形圖の時代が出現しはじめたのである。爾來測量局に三角測量課（大地測量）地形測量課（小地測量）及び地圖課といふ三課が出来、各課は更に數班に分かれて事務をすゝめた。この時地圖課では之を三班に分ち第一班は二萬分一、十萬分一、二十萬分一等国圖の製圖製版、第二班は内國圖の修正、印刷、寫眞製圖等、第三班は外國の地圖、又は臨時の地圖をつくることにきめた。しかし一方三角測量の方はその事業が厄介で容易でない、地形圖のための三角點の供給が思ふやうに抄取らない、しかし時代の要求は之を一日も忽にしがたから、焦眉の急に應じて明治十一年から十二

年にかけては、伊能中圖、天保圖によつて「軍管圖」なるものをつくつて用兵の用に供した。之は傳寫石版のケバ式地圖で方格圖であり、第三軍管圖の如きは、京都を○度にした經度をしるしてゐた。内務省關係の管内圖よりも其出來榮はわるかつた。しかし明治十三年に出來た二萬分一小地測量圖は、餘程立派な近世式に出來上つたが、これも日本全體に及ぶといふことは出來なかつたので、伊能圖に基き各府縣の管内地圖を改訂して、梯尺二十萬分一の全國圖をつくることとし、やがて輯成二十萬分一地圖といふものが出版された。それは實にこの第一班の仕事で明治二十五年までかゝた、班長早川省義の下に、早乙女氏が圖稿を起し、傳寫石版で仕上げたものであるが、二十一年以後は電氣銅版にかへた。幸にして明治二十年頃から、地圖の拂下げも實行され、大に民間の用にもなつたのである。

明治二十一年以後は陸地測量部といふものに



なつて獨立官衙が出来る、修技所といふものが開かれて、多くの技手の養成が出来るといふことになつたが、しかし測量といひ製圖といひ容易にすゝむ仕事でない。ついで二十三年に陸地測量手多湖實敏が獨逸留學を了へて歸朝したので又々新しい相談が出来たとみえ、從來の二萬分一は中止、それよりも可成早く五萬分一の地形圖を完成することゝ更められた。

即二萬分一を地形原圖とし、十萬分一帝國圖をつくり、其外に縮尺の小さい輿地圖をつくるといふのが從來の約束であつたのが、この際事業の進捗を主として「五萬分一地形圖」をつくるといふことにしたのである。しかしそれでも容易に全部出来るわけではなかつた、おまけに明治二十七八年戦役が勃發するに至つては、製圖科は二十萬分一朝鮮圖をつくる必要に迫られて又々多忙を極めた。實に當時正しい朝鮮圖といふものは、日本に一枚もなかつたといつてよい程であつた。ついで臺灣の新領土の測量製圖

とか北清事變に處する各種の地圖などいふものが必要がつきからつきへと起つてきて、國際政局はしばらくも停止しないのである。それでもかうした間に「五萬分一地形圖」の徐々に進行を見たことは全く、陸地測量部に感謝してよい大事業であつた。我等はかうした歴史を陸地測量部沿革誌から學んで、云ひしれぬ感激にふけるものである。かくて測量部條例が公布されて後四十餘年にして、やうやく北は千島より南は南西諸島に至る諸島の測量を完成し、五萬分一地形圖といふ基本圖が出来上つたのである。猶さうした進行の間に、多くの地圖が出来て、昭和七年十月報告によれば、現在我等は、左に列記する多くの日本圖を持つに至つたのである。

一、地形圖、一萬分一(樞要都市) 二萬五千分一(大正六年以來發行) 二萬分一(衛戍地、主要都市附近に限りて存するが、二萬五千分一が出来ると逐次廢止されることになつてゐる) 五萬分一(我國地形基本圖)

二、編纂圖 二十萬分一帝國圖(五萬分一より縮寫したもので疊漉式現圖法を用いた色刷美本である、總數一二六枚)

(編製二十萬分一圖)假製二十萬分一臺灣圖は共に正式測量以前のもの)二十萬分一朝鮮圖(總督府發行)五十萬分一興地圖(二十五枚)(同じく五十萬分一朝鮮圖は道別にして調製)百萬分一東亞輿地圖(二色刷、三色刷、四色刷の三種二四三枚)百萬分一萬國圖(萬國協定に基く圖式を以てつくる、ローマ字註記、多色刷、東京、金澤、大阪の三圖幅完成。其他進行中)

十萬分一關東州圖、二百五十萬分一滿洲東部支那一般圖、

二百萬分一大日本輿地圖(四六判二枚八色刷の一覽圖)、二

百五十萬分一東亞大陸圖(四六判四枚に收めた一覽圖)

三、特殊圖 一萬分一、二萬五千分一、及五萬分一都市近郊

圖。二萬五千分一スキー用圖(赤倉圖幅)、五萬分一山嶽圖

(白馬、富士、槍ヶ嶽、箱根、白根、赤石、大華山の七圖)

十萬分一地方圖(水戸、岡山、熊本、京阪、關東、名古屋

等)二十萬分一地方圖(二十萬分一帝國圖を集成し交通を

明にしたもの)

一萬分一、二萬五千分一演習場圖等。

まづかうした三種別、多數の地圖が拂下げらるゝことになつて、單に軍事のみでなく、一般の文化の發展に寄與するところ極めて多大になつた。これを徳川時代に比べて誠に雲泥の差であるといはねばならぬ。

## 日本の地圖

地理の學徒も、かうした地圖を手にする事によつて、いよ／＼その學問の進歩に貢獻することが出来るやうになつた。これと同時に、農商務省の地質調査所(今商工省所轄)から我國の地質圖がつぎからつぎへと新しく出てゆくといふことも亦現代に於て見のがすことの出来ない學徒の幸福である。東京大地震のために、既に出來た地質圖は殆ど烏有に歸したけれども、地質調査所はますます精密な圖を提供して倦む所をしないといふ現状である。

## 二

以上略述したことによつて日本の地圖の發達の大體の道筋は述べ終つたやうな氣がする、官民の間ではかうした地形圖や輯成圖の餘徳をうけて、旅行圖や地方圖や、小中學の教科書又は掛圖などを作つてゆくのであるが、今日までの所五萬分一地形圖に基いて出來たものは、何といつても小川琢治日本地圖帖(大正十三年發行)を大宗とする。この書は既に新しい市町

村の廢合や鐵道の開通、港灣の改造などからみて既に全く古いものにはなつたけれども、層式現圖法によるアトラスとしては、今日に至つて猶唯一のものである。述べてこの點に達すると民間學者の地圖に對する努力は未だ十分であ

るとはいへない。どうかしてかうした形勢を、せめてドイツあたりのアトラス出版界の程度に追隨せしめたいと思ふのは獨り筆者一人の感ではあるまい。(完)

## 世界戦後の地名考 (七)

瀧川規一

アフガニスタン (Afghanistan) (續々)。アフガニスタンは人口概算六、八三〇、〇〇〇と稱せられ、種々なる民族によつて住まれてゐる。彼等を總稱してアフガン (Afghan) と云へども實際は二種の優勢を占める種族の一なるヅラニ (Durani) 族のみがアフガンと稱すべきものである。言語は波斯亞語とプシュツ (Pushtu) 語である。宗教はモハメット教である。主要都會は

東アフガニスタンの首府カブール (Kabul)、西アフガニスタンの首府ヘラト (Herat)、南アフガニスタンの首府カンダハル (Kandahar) である。

アフガニスタンの歴史は紀元前より始まる。近代の歴史は一七四七年アーマド・カン (Ahmad Khan) がヅラニ王朝 (Durani dynasty) を建設せし時より始まる。一八三八年アフガニスタンが